



詳しい情報については、以下にメール下さい

富田房男

YRL05042@nifty.com

**遺伝子組換え（GM）作物の栽培面積は、  
2016年に1億8,510万ヘクタールという新たな記録を作った**

**農業者が引き続き遺伝子組換え作物を栽培することにより  
栽培面積は2015年に比べ、世界的に再び増加した**

北京（2017年5月4日）発—本日国際アグリバイオ事業団（ISAAA）は、年次報告書を発表し、21年間の商業栽培を通じて遺伝子組換え作物の導入率が110倍に増加し、1996年の栽培面積170万ヘクタールから2016年の1億8510万ヘクタールまで増加したことを明らかにした。ISAAAの報告書「遺伝子組換え（GM）作物商業化の世界動向：2016年」によると遺伝子組換え作物は、発展途上国および先進国における農業者に、長年にわたり便益を与えてきたが、近年承認され、商業化された遺伝子組換え品種は消費者に利益を与えているとしている。

「遺伝子組換え作物は、生産性と収益性の向上と環境保全に非常に大きなメリットがあるため、世界中の農業者にとり、手放せない手段となっている。」とISAAA 理事長 Paul S. Teng 博士が語った。遺伝子組換えによるジャガイモとリンゴの新品種の商業栽培の承認により、傷みにくい農産物が消費者に供給されることになる。これにより食品廃棄を削減することが可能となり生鮮品の価格引き下げ可能となる。これにより消費者は直接的な利益を目にすることになる。

上記に加え、遺伝子組換えの利点としてISAAAは、遺伝子組換え作物の導入により、近年では年間約1,200万台の車を路上から排除することに等しいCO<sub>2</sub>排出量が削減されたと報告している。さらに2015年には1,940万ヘクタールの農耕地を削減することで生物多様性の保全を促進した。除草剤および殺虫剤の使用量が19%削減され、環境への影響が低減された。発展途上国では、遺伝子組換え作物の栽培により、小規模農業従事者1,800万人およびその家族の収入を増加させ、6,500万人以上の人々の生計を安定させ、空腹を和らげることができた。

「遺伝子組換え技術は、農業者がより少ない土地でより食料生産を増加させるため必要なツールの1つです。」と、ISAAAのグローバルコーディネーター、Randy

Hautea氏は説明している。加えて「遺伝子組換え作物のこのような利点は、農業者がこれらの作物の種子を購入して栽培することができて初めて達成されます。そして、その前段階として、その遺伝子組換え作物品種が科学的評価を経た規制の見直しを経て承認されなければならないのです。」と説明している。

商業栽培の承認により農業者の利用が可能となった遺伝子組換え品種の数は増加している。ISAAAは引き続き遺伝子組換え作物の栽培面積は増加し、それは途上国の農業者の利益となると考えている。規制プロセスが遺伝子組換え作物導入の障害となっていたアフリカ諸国で状況の改善が見えてきている。南アフリカとスーダンでは遺伝子組換えトウモロコシ、ダイズ、ワタの栽培面積は2015年の229万ヘクタールから2016年の266万ヘクタールまで増加した。また、ケニア、マラウイ、ナイジェリア、エチオピア、ガーナ、スワジランド、ウガンダでは、様々な遺伝子組換え作物の商業栽培承認のための評価プロセスの見直しが進捗している。

「長期にわたり、規制上の障壁が存在していましたが、アフリカの農業者は、遺伝子組換え品種の生産安定性と高い生産性からその価値を認め、遺伝子組換え作物の導入を続けてきました。」とHautea博士は語った。また同氏は、「バナナ、ササゲ、ソルガムなどの作物の規制上の見直しを進める国が増えれば、アフリカやその他の地域での遺伝子組換え作物の栽培は今後も拡大するだろう。」とも語った。

また、2016年、ブラジルは米国に次いで遺伝子組換え作物栽培面積、第2位の地位を維持しており、トウモロコシ、ダイズ、ワタおよびキャノーラの遺伝子組換え作物の栽培面積を11%増加させた。遺伝子組換えダイズは世界で栽培されている9,140万ヘクタールのうち、ブラジルが3,200万ヘクタールを占めている。

ISAAAは、2016年に遺伝子組換え果物や野菜など直接消費者利益が見える農産物の商業栽培に進展があったと報告している。これには米国食品医薬品局が米国での販売を承認したInnate™ Russet Burbank Gen 2 ジャガイモとカナダ保健省がカナダでの販売を承認したSimplot社のGen 1 White Russet（商標）ジャガイモが含まれる。これらの遺伝子組換えジャガイモ品種は、アスパラギンのレベルが低いため、高熱調理中に生成するアクリルアミドも低いレベルとなる。2016年には、さらにArctic® Applesの市販可能な量が初めて収穫され、冬期間貯蔵した後、2017年に米国の食料品店で販売される予定である。

その他のハイライトは以下の通りである。

- ・世界全体の遺伝子組換え作物栽培面積は、2014年には1億8,150万ヘクタールだったものが2015年に遺伝子組換え作物の総栽培面積は減少して1億7,970万ヘクタールとなったが、2016年には1億8,510万ヘクタールに回復した。
- ・2016年には、発展途上国19か国と先進国7か国の合計26カ国が遺伝子組換え作物を栽培した。  
遺伝子組換え作物全体の54%が開発途上国で栽培され、先進工業国では46%が栽培された。
- ・中国およびインドを含むアジア・太平洋地域の8カ国は、2016年に1,860万ヘクタールの遺伝子組換え作物を栽培した。
- ・パラグアイ、ウルグアイを含むラテンアメリカの10カ国は、2016年に総計8,000万ヘクタールの遺伝子組換え作物を栽培した。
- ・2016年の遺伝子組換え作物を栽培している主要国は、引き続き米国、ブラジル、アルゼンチン、カナダ、インドだった。これらの5つの国を合わせると、世界の遺伝子組換え作物栽培総面積の91%を占めた。
- ・ヨーロッパの4カ国（スペイン、ポルトガル、チェコ、スロバキア）は、2016年に13万6,000ヘクタールを超える遺伝子組換えトウモロコシを栽培し、2015年と比べて17%増加した。これは、EUでは害虫抵抗性トウモロコシが必要とされていることを反映している。
- ・多重形質を持つ遺伝子組換え作物は、世界総栽培面積の47%を占め、これに次いで除草剤耐性作物が、41%を占めた。
- ・遺伝子組換えダイズ品種は、世界の遺伝子組換え作物総栽培面積の50%を占めた。  
個々の作物について世界総栽培面積を見ると、ダイズ78%、ワタ64%、トウモロコシ26%、およびキャノーラ24%が遺伝子組換え品種だった。
- ・ダイズについて遺伝子組換え品種の割合が90%を超える国は、米国、ブラジル、アルゼンチン、カナダ、南アフリカ、ウルグアイである。；遺伝子組換えトウモロコシの割合が90%前後を占める国は、米国、ブラジル、アルゼンチン、カナダ、南アフリカ、ウルグアイである。遺伝子組換えワタの割合が90%以上であるのは米国、アルゼンチン、インド、中国、パキスタン、南アフリカ、メキシコ、オーストラリア、ミャンマーである。遺伝子組換えキャノーラの割合が90%以上の国は米国とカナダである。

詳細な情報と報告書の要旨は、[www.isaaa.org](http://www.isaaa.org)をご覧ください。

### 国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) について

国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) は、知識と作物バイオテクノロジーの応用を共有することにより、飢餓と貧困の軽減に貢献することを目指す国際的なネットワークセンターをもつ非営利団体である。この団体の名誉理事長で創設者の **Clive James** 氏は、過去 30 年間アジア、中南米、アフリカの発展途上国で生活し、且つ働いて、作物バイオテクノロジーと世界の食糧安全保障に関する農業に関する研究・開発に献身的に取り組んできた。